

# 輪島市 河原田川(かわらだがわ)支川の猿谷における 河道閉塞と湛水域の形成について

2024年1月9日 04:30

京都大学防災研究所 地盤災害研究部門 山地災害環境研究分野 松四雄騎

国土地理院が2024年1月5日に撮影した垂直写真の判読および、同院が1月7日までに公開したオルソ画像と土砂移動痕跡のマッピングに基づき、令和6年能登半島地震によって発生した斜面の崩壊により、輪島市を流れる河原田川の支川猿谷において、河道が閉塞し、湛水域が形成されていることがわかりました(図1, 2). この場所では、地震による斜面崩落の発生直後に、崩土の一部が土石流化し、猿谷出口に流出してきたことがわかっています. 地形判読によると、塞き止め湖(いわゆる天然ダム)の最大可能湛水深は18 m程度、湛水容量は $6.6 \times 10^4 \text{ m}^3$ 程度と見積もられ、既に通水が始まっている様子が観察されます(図2, 3). 越流侵食により、間欠的に土石流が発生する可能性があり、輪島市 市ノ瀬町および同山ノ上町の猿谷から河原田川への合流点に至る下流側の低地においては、土砂と水の急激な流出現象への警戒が必要です. 今後、融雪出水期にかけて長期的に監視体制を強化する必要があります.

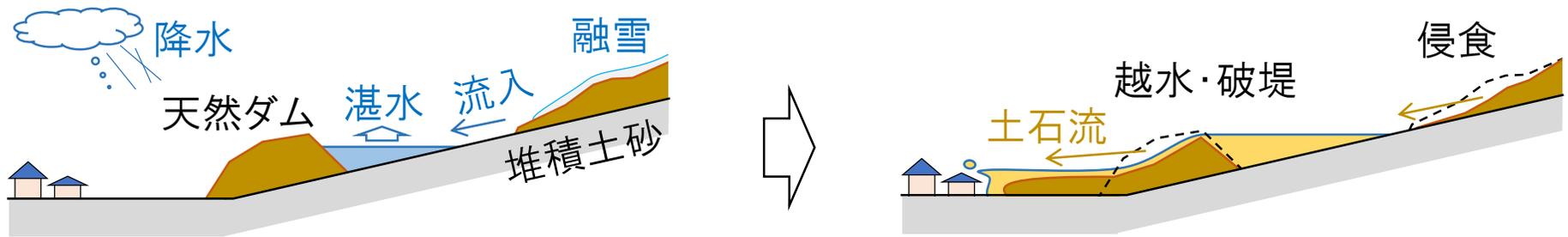


図1. 斜面崩壊—河道閉塞—土石流による連鎖複合災害の概念図

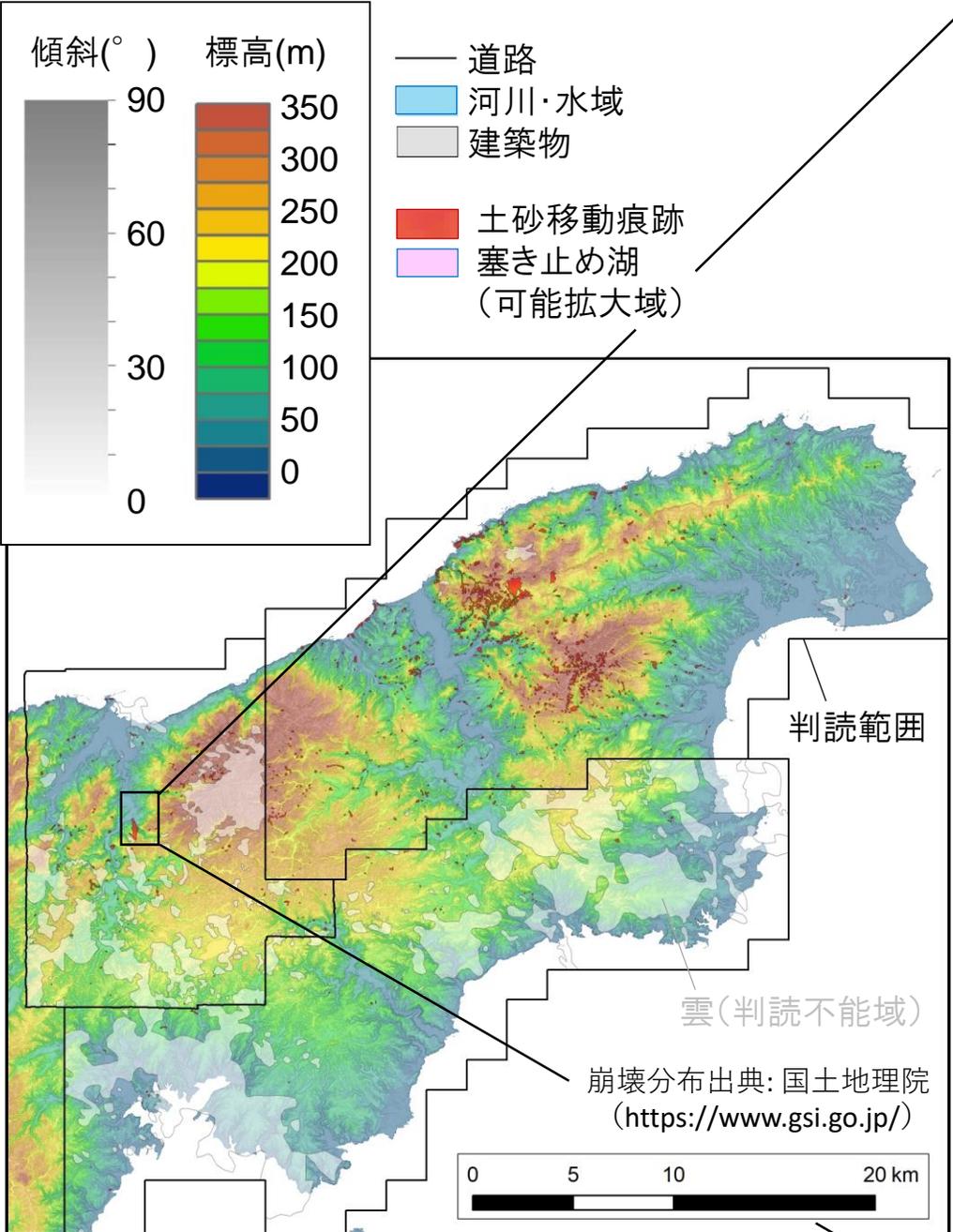
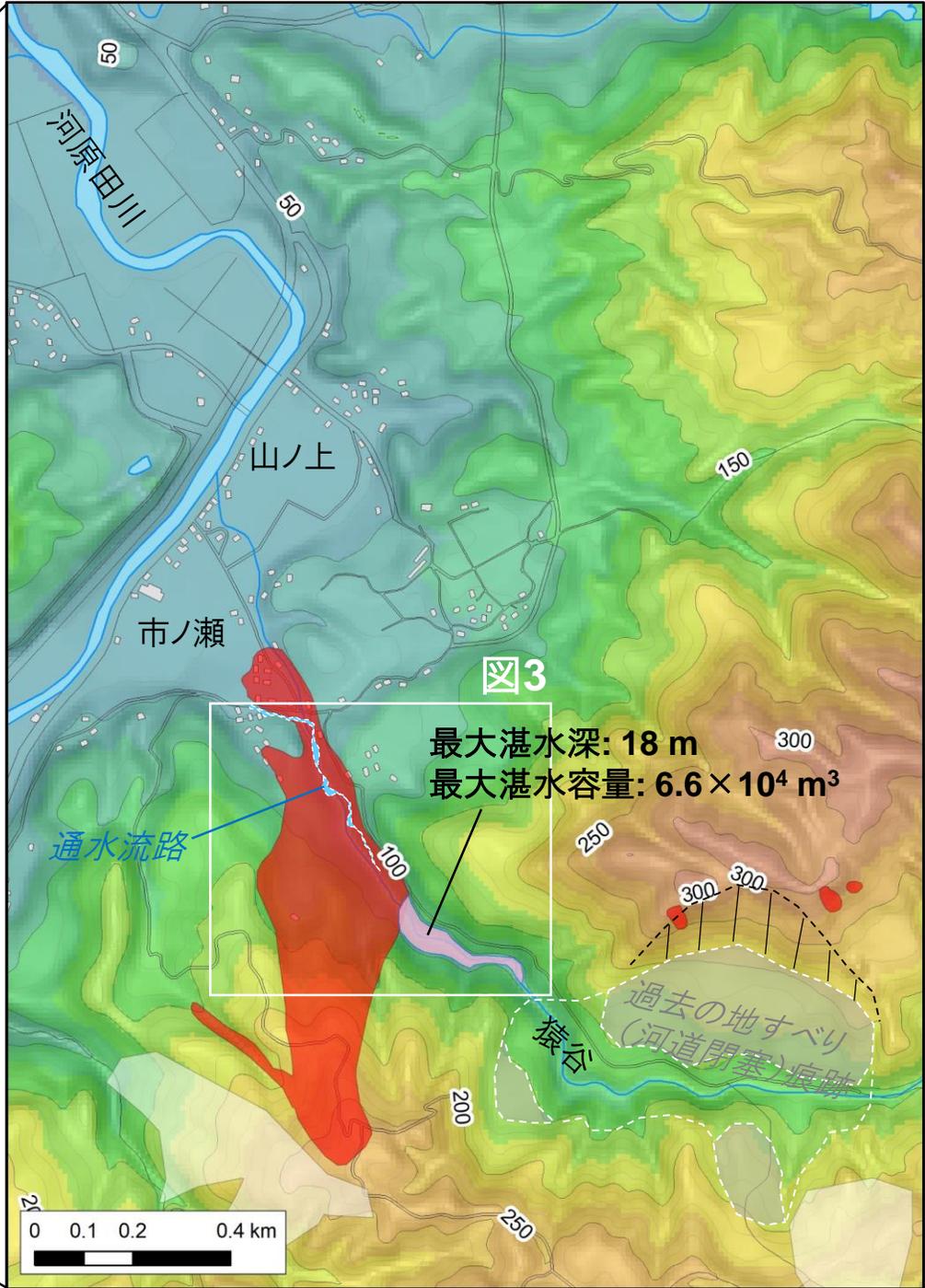


図2. 猿谷における河道閉塞と湛水域の形成



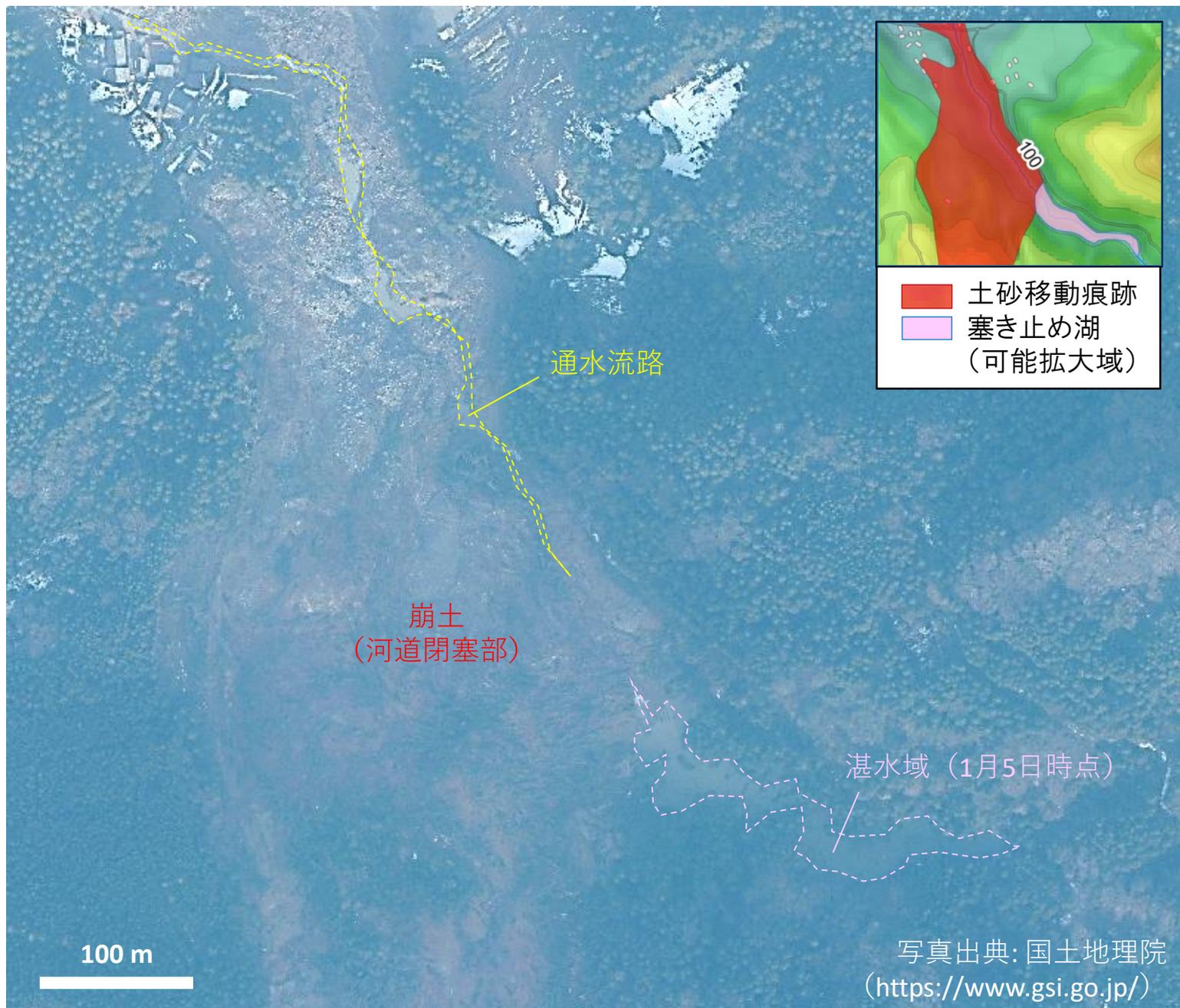


図3. 河道閉塞部および湛水域の拡大正射画像